



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THESERVICECLUB FOR THEYMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

2021年12月号

NO 543

わたしにつまずかない人は幸いである。

マタイによる福音書11章6節

「キリスト教理解」に思う

神谷幸男

12月強調月間テーマは「キリスト教理解」と「記録」とあります。「記録」はともかくとして、「キリスト教理解」とは何を指しているのか判かりにくいと思います。即ち、「キリスト教の教理ないし信仰」を理解することなのか、国際憲法（アジア太平洋地域憲法、東日本区定款を含む。以下同じ）に明記されている「イエス・キリストの教え」を理解することなのか、その両方を指しているのか。ワイズの取り決め事項は理解して実践することが前提になっているのですから、この辺のところははっきりさせておきたいところです。

国際憲法は続いて、「イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々がたがいに働く、…」とありますから、前者即ち「キリスト教の教理ないし信仰」を理解し実践すること即ちキリスト

教信者なることを前提としてはいないと思われま。ですから余談ながら、おのずと各集会で慣習的に行われている「聖書朗読、讃美歌朗唱、祈祷」などの宗教的セレモニーの可否論についても結論を出し易くなるのではないのでしょうか。

ちなみにキリスト教信仰は、「神」の存在を否定したり「神の愛」を知らないことやその愛に応えなかったり、応えないばかりか逆らうこと、これらのことが「罪」であること、そしてその「罪」をイエス・キリストの十字架の死と復活によって赦される、救われる、と信ずることであると思っています。

一方、イエス・キリストの教えに基づく「相互理解、敬愛の思い」とは見ての通りです。なお、根源をさらに深く理解するには新約聖書に書かれている有名な「善いサマリア人」の記載(ルカによる



12月に咲いている花には、山茶花、コスモス、水仙など多数ありますが、今回あまり知られていない地味な花、石蓀（イワブキ）を取り上げてみました。花言葉は、「困難に負けない」です。日陰でも常に緑色の葉を茂らせている丈夫な性質に由来します。

福音書10章25～37節)等をご参照くださればよいかと思います。

蛇足ながら、「イエス・キリストの教えに基づく相互理解、敬愛の思い」の意味をさらに深く理解ないし体感するために前記セレモニーを行う意義も理解し易くなるかも知れません。

クラブ役員

- 会長 鳥越 成代
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

11月の記録				ニコニコ	8,050円
在籍者数	12人	メネット	1人	クラブファンド	0円
(内功労会員)	1人				
出席者数	10人	コメント	0人	ファンド残高	113,308円
メーカー	1人	ビジター	3人	ホテ校ファンド	3,000円
出席率	100%	ゲスト	0人	ホテ校残高	15,700円
内Zoom参加	0人	出席者合計	14人	WHO参加者	一人

12月クリスマス例会のご案内

今月の強調テーマ： キリスト教理解

寒風が肌に沁みる候となりました。寒さの中でも皆さまにはお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。12月例会は恒例のクリスマス例会です。おいしいイタリアン料理を楽しみながらお互いに近況スピーチを聞きあつて親睦を深めましょう。

日時：12月16日(木)18:30~21:00

会場：イタリアンレストラン “ドラマティコ”

杉並区荻窪 5-12-16 TEL 03-6915-1836

JR・丸の内線 荻窪駅南口下車徒歩5分

会費：メンバー：5,500円

ゲスト、ビジター、メネット：7,000円

担当：C班（神谷、河原崎、篠原、横山）

HAPPY BIRTHDAY

4日 神谷 雅子 15日 吉田 廸子
18日 村野 絢子

開会点鐘
いざたて
聖書朗読・祈祷
会長挨拶・紹介

会食

メンバースピーチ
諸報告

閉会点鐘

受付：篠原 文恵

司会：河原崎和美

会長 鳥越 成代

一同

神谷 幸男

会長

一同

出席者全員

会長

各担当者

会長



—11月事務会報告—

日時：11月25日(木)

17:00-18:45

会場：ウエルファーム杉並 4F

出席者：吉田、河原崎、石井、高嶋、篠原、村野、本川

<報告事項>

- ・11月の会計報告を承認した。
- ・在京新年会はハイブリッド形式で行われるため出席者は会長のみ、会員は ZOOM で参加できる。

ZOOM 参加方法は、ホストの東京むかでクラブから連絡があり次第、連絡する。

<協議事項 例会関係>

▼12月の例会 当番C班

クリスマスの例会の会場を荻窪のイタリアンレストラン “ドラマティコ” に決めた。

会費：7,000円（メンバーは、例会費で補填し 5,500円とする）

▼1月の卓話は八王子クラブ・花輪宗命さんのメネット・豊子さん。

▼2月の卓話は建築家・堀明子さん（村野さんご友人）。

▼2年間中止した3月の東京世田谷クラブとの合同例会は東京世田谷クラブ主催で行う。

<協議事項 例会以外>

12月ブリテン担当は神谷さん <その他>

▼次年度クラブ役員候補

2021年-2022年度クラブ役員候補を下記の通り決定した。

会長候補 高嶋美知子

副会長候補 本川 悦子

書記・会計候補については、名

は上がったが、時間切れのため決せず、12月事務会で、会長・副会長候補の意向も踏まえて決める。4候補は、1月例会の臨時総会アワーにおいて承認される予定。（本川悦子）

もう一つの「強調月間テーマ」
「記録・ヒストリアン」

本年度から強調月間テーマが大幅に変更になりました。これまで12月は、「EMC/MC」でしたが、「キリスト教理解」と「記録（ヒストリアン）」となりました。

クラブとしてはブリテンの巻頭言に「キリスト教理解」を取り上げました。「記録（ヒストリアン）」については、最新の「理事通信」に、東日本区ヒストリアンの仙洞田安宏さん（甲府）が「ブリテンは記録の泉」、「記録は未来への懸け橋」として、「記録の森の散歩」と、記録すること、これを読むことを勧めています。

クラブ創立以来のブリテンが、どこに揃っているか、ご存知ですか？ これから発行されていくブリテンをだれが保管していくかご存知ですか？



東京 G の誇り「神田川船の会」 11 月クラブ例会報告

11 月例会は 18 日。卓話は東京グリーンクラブの地域奉仕事業「神田川船の会」について、映像を交え同クラブの樋口順英会長、布上征一郎さんからでした。

発足当時、都内の河川はごみが捨てられ、生活排水も流れ込み悲惨な状態でした。まず、汚れた川を船から観て感じようとゴムボートを貸切って調査を始めました。その後 1979 年「甦れ神田川！」をスローガンに「船の会」を立ち上げました。

メンバーが水の汚染のメカを学び、川と沿岸の地誌を調べ、ガイドを務めてきました。

やがて官民の努力と莫大な費用を費やし、河川の水質がやや改善され神田川にもアユが戻り、最近では山手通交差点付近でも確認されるようになったそうです。

1984 年からは地域の小学生を招待し、今では小学 4 年生の野外学習となっています。4 年生はまだ歴史を習っていませんから説明に苦勞するそうです。これまでに約 2000 人の生徒が乗船されています。

家康の江戸入府以来の神田川の変遷、沿岸の建造物、震災・空襲の傷跡、橋梁などを紹介しつつ、水質向上、水害防止、動植物保護、ごみの除去等を訴えます。

子どもの歓声が聞こえるようです。「自分たちは観光ガイドではない、ありのまま観て感じて

らい、次のアクションに繋がってほしい」との発言や、卓話が「もしマヨネーズ大匙 1 杯を水に流したら、魚が住める水質にするのに、どれだけの水が必要？」という

クイズから始まった（答えは、風呂おけ 13 杯）ことから、この事業をクラブが引き継いできた強い意志を感じました。

11 月から例会形式、時間が旧に復したこともあり、時間も全員が意識し、和やかな中に定刻に閉会しました。（吉田明弘）

[出席者] <メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>布上征一郎・布上信子・樋口順英（卓話者・東京グリーン）、<MU>横山（Y 研修）

[10 月出席者] <メンバー>大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、<メネット>神谷、<ゲスト>竹倉真也（卓話者）<ビジター>小口多津子・久保田貞視・長谷川あや子（東京八王子）、<MU>石井（9 月事務会）、横山（Y 研修）

東京たんぽぽ Y サービスクラブ ZOOM 訪問記

11 月 9 日（火）、久しぶりに他クラブを訪問しました。ただし、家に居ながらにして訪問できるのは世の中、便利になりました。

藤江喜美子さんにお会いしたときに、11 月例会はこれも久しぶりに山手コミュニティセンターで行われ、日蓮宗の僧侶、小島宏之さんという方の「自己を育み他者を育む」卓話を拝聴できるとのお誘いを受け、ZOOM でも参加できるとのことでしたので参加しました。小畑、越智、小原、服部、藤江各氏、その他 2~3 人の

方、ZOOM 参加の久保田貞視さん・長谷川あや子さん（東京八王子）とも画面を通してお会い出来ました。

卓話は、人は幸せになることが大切。自己を育むこと、他者を育むことが幸せであり、他に奉仕すること（社会貢献）、自己受容すること（人を恨まないこと、感謝する心）こと、世を信頼することが幸せになるキーワードであると、理解しました。（神谷幸男）

東京八王子クラブ例会報告

新型コロナが流行して他クラブ訪問どころか自クラブの例会を開くのも大変な一年余りでした。やっと感染者数が減ってきたので（今また新型オミクロン株が人々を脅かしていますが）久しぶりに東京八王子クラブを訪問しました。今月はハイブリッド例会でしたから当クラブからは篠原さんが ZOOM で参加され、3 名が訪問しました。

卓話は八王子クラブメンバー花輪宗命さんのメネット豊子さんが海外生活の経験を生かして、八王子市の NPO 法人八王子国際協会でのお仕事から「多文化共生」についていろいろな事例を出しながらお話をされました。

まず始めに「一番身近な異文化はなんでしょう」と質問されました。外国、外国人とは無縁な私は関係ないと思っていたところ「それは家庭内です」と言われました。そういえば山形出身の夫と生活していて習慣、言葉の違いから理解出来なかったことは何度もありました。「異文化」と思えば喧嘩などしないで済んだものをなぜ気がつかなかったのかと反省しました。

外国からきて、言葉、習慣、考え方が違うため馴染めないでいる外国人を、地域でお互いの文化を認め合いながら暮らせるようにサポートしている花輪さんは素晴らしいと思いました。

（本川悦子）

☆☆☆ インタビュー ☆100☆
石田 孝次さんに聴く
 東京多摩みなみクラブ



—東京多摩みなみクラブは創立7年目。議論活発で活動的な印象がありますが。

「多士済々の強者の集まりで、タレント性に富んでいます。会員それぞれの認識のずれや路線の違いを繰り返しながら地固まってきました」

—石田さんは初代会長。クラブに加わったのは。

「サラリーマン時代は銀行勤務で、最初に配属された仙台支店の課長だった横浜つづきクラブの鈴木茂さんから、2015年に新クラブづくりをされていた伊藤幾夫さんを紹介されたのが縁です。右も左もわからずにいきなりの会長はきびしかったです。何やら儀式めいており、例会は正直馴染めず、会長としての役割は、ほとんど果たせず仕舞いでした。迷走の始まりは、ボランティア活動とは一体全体何をどうすることなのか？ 寄付することなのか？ と言う疑問からでした。3年経って、自分なりに、ボランティア活動は、関わり方の違いはあっても「自助」「共助」「公助」の組み合わせだと悟りました。YMCAについては、私は「公助」として支えるべき対象だと認識しています。—いつもクラブワークを楽しんでおられる印象がありますが。

「ワイズを『楽しめる場』にしたい。楽しければ人は集まる。人の集まる場所には魅力があるはず。魅力をどうやって作り出す

かにエネルギーを注ぎ、仲間と共に考えてきました」

—石田さんはお生まれは。

「1948年、北海道雨竜郡納内村の生まれです。生育地は、炭鉱町の美唄市です。石炭から石油のエネルギー革命で閉山となり町ごと崩壊する姿を高校2年生の時に体験しています」

—子どもの頃はどんな子でした。石田さんのメールアドレスの「kotan」から「こーちゃん」と呼ばれ、自分では「こーたん」と言っている次男坊が浮かびますが。

「ガキ大将で、裏山や人里離れた場所によく行っていました。冒険好きな子でした。よく言えば、好奇心旺盛、体験・実践主義です」—小学校の時、好きな学科は。

「算数でした。大学は小樽で、商学部経済学科。数理経済学に没頭し、学者志望でした」

—銀行でのお仕事は

「主に貸付畑でした。二度会社更生法の手続きを経験し、会社整理の法的な側面を実践的に学びました。30歳で経営コンサルティング会社に出向し、幅広くビジネスの世界を知る貴重な機会となりました」

「49.5歳で出向し畑違いの電材メーカーに再就職。65.5歳でサラリーマン人生にピリオドを打ちました。今の川崎市新百合丘の住まいに移ったのはその後です」

—創立から1年半後の東京多摩みなみクラブのプリテンに「甲府クラブの仙洞田安宏さんをクラブ役員会に招いて、同クラブの『ワイズ農場』について聴く」とあったので、何を考えてるのかと思いました。2か月後に『ぼんぼこ農園』を始められ、今年春には、Zoomによる『プランターで出来る野菜づくり講座』を始められましたね。

「クラブを『楽しい場』にするため試行錯誤の末、出来上がった活動モデルです。みんなで考えました。イベントを立ち上げ、それ

をボランティアで支え、参加者の輪を外に求める。参加費をいただきますが、残ったお金は地域の慈善団体に寄付する地域貢献モデルです。究極は、この活動を通じて会員増強につなげたいですね」—区の「Challenge! 2022」推進委員会にも加わっておられますね。今、考えておられることは。

「アクションのきっかけづくりです。個々のクラブが、外に向かって元気に活動し、情報を発信できれば、その活動を通じて共感者が増える。クラブの活動にイベント性を取り入れ、ワイズ全体のユニークな人材を活かし、人の集まるイベントづくりを考えるのです。アイデアは、全国のワイズのクラブの中に埋もれています。ポイントは、それを再発見し、役立てる工夫だと思います。ワイズ全体で知恵を出し合うのです。もう一つは、「well-being (良くなっていく)の実現につながる活動。『支援する対象』も『活動する自分たち』も well-being でつながりそれを共有することだと思います。ワイズは、そのことを実践するボランティア組織なのだということ意識していきたいですね。そのためには、クラブが縮小均衡しては何もできません。みんなの力を結集するのです」

—趣味は。

「ゴルフは、時間とお金の無駄遣いだと悟り止めました。ウォーキングは、私の健康の原点です。出来るだけ時間を割いています。日々のウォーキングを通じて常連さんとのコミュニケーションの輪を広げているところです」—座右の銘など、日ごろ意識していることは。

「ボケずに残りの人生を健康で過ごすには、頭に刺激を与え続け、社会との接点を持ち続けることです」

—有難うございました。

(吉田明弘)

ふりかえり【続】 ワイズインタビュー 今月、100人目登場

「ワイズインタビュー」の登場人物が今月で 100 人目になりました。先月に続いて振り返ります。
(吉田明弘)

初対面のお相手が 24 人

先月号で書きましたが、インタビューの登場人物は、一方的にこちらで選ばせていただいています。候補が多いので毎月悩みます。結果的にはこれまで 100 人のうち、それまでに私にとって初対面、個人的に話したことのなかった方が 24 人でした。

「PCをやれる者はおらん」

人選で今だに、やられたという思いが消えないのは青木義実さん(熱海)です。伊東クラブ 40 周年記念例会の時、「誰か面白い人いないかね。パソコンが出来て」と聞いたら「富士山部にパソコンなどやるものおらんよ」。そんなことあるはずがなく、からかわれたのでしようが、一瞬騙されて、「だれか出来る人いないの」と言ったら、「そうだな、御殿場の前原末子さんはどうだ」。私は、前原さんを知りませんでした。2017 年 2 月、御殿場東山荘で東西日本区交流会を行った時、降雪のため難儀しましたが、広い駐車場の除雪作業をしたのが、御殿場クラブの女性メンバーたちで、強い印象を受けた記憶がありました。ぜひインタビューしたいと、たまたま参加していた前原さんをお願いしました。インタビューは期待通りでした。

石川泰仁さん(御殿場)は渡邊実帆さん(当時沼津、現東京世田谷)から「富士山の山小屋に木炭を届けている炭屋さんがいる」という話を聞きました。ロースターに載っている店名「薪炭業・スミヤ」が前から気になっていました。色々面白い話が聴けました。

候補が絞れたら、まず依頼文書を送るか電話をします。

返事は、その日から 3 日くらいで頂けます、

「東京西クラブです」「ブリテンのインタビューです」「協力してください」と言うだけ。100 号迄で断られたのは 1 件だけでした。「私でいいんなら、いいよ」がほとんどで力みがありません。連絡が取れなかった方が 2 人おられました。

登場人物の事前取材はとりあえずはワイズ文献類ですが、“耳情報”が貴重です。近いワイズメンに電話で聞き取ります。質問をつくり、想定の間答形式にして、お願いし、ホッとします。この作業はせわしいけど楽しい時間です。

リアル面談は 3 人

実際にリアル面談したのは 3 人。先月号に書いた木原洸さん(東京西)に続いては白坂鐘蔵さん(東京江東)東京木場の材木問屋の社長さん 95 歳。同クラブの香取良和さん、藤井寛敏さんに案内を頼みました。3 人で待っていると車を運転して帰ってこられ、話は 95 歳の運転で盛り上がったのですが、もし、これを載せた後に、事故にでも遭われたら、まずいと、ボツにして、YMCA ワイズの昔話を聞かせてもらいました。

PC入力に助っ人

越智京子さんは、手術前日、早稲田のホテルロビーで話せました。いつものように明解な語り口。目が悪くて読めない、書けないといわれていましたが、手元にしっかりメモがありました。

代書もありました。池谷淳さん(下田)は、1 回は断られましたが、この時はパートナーの入院とぶつかっただけで、しばらくして、同じクラブの清野大樹さんがパソコンを引き受けて、行くことが出来ました。療養中の河合重三さん(富士)の時も漆畑義彦さん(同じ)の助力がありました。

こちらの質問に対する返答は、早いのです。翌日にきちっとした回答が届いたこともあります。し

かも、字数は予定の 3 倍くらい。後はスペースに合わせて縮めるだけでした。

頭の中から取り出すだけ

なぜこんなに早く書けるのか不思議でした。なんとなくワケが判るように思いました。皆さん、意識するかしないかは、別にして頭の中には「自分史」を書かれているようです。ですからすぐに取り出せるのでしょう。

頂いた情報は、まったく想像していなかった新事実や内容があるのです。これは差し替えたり、問い合わせたり、合いの手を入れたりして、規定の長さにまとめます。これは私にとって月に一度の至福の時間です。何回かやりとりがあって原稿が出来上がるのは発行前月末です。

このまま続けて良いものか

100 人目となりました。今後のことを考えています。毎月新鮮なネタが入ってきますが、編集サイドがマンネリになっています。クラブの変化に伴う他の誌面とのバランスが必要です。

こんなことを考えています。

- ① 毎回決まった質問を減らして、それぞれの個性や問題意識に合わせたやりとりに、多くのスペースを費やせないか。
- ② この欄の編集を複数態勢に出来ないだろうか。
- ③ これまで、出身校や勤務先などを固有名詞にしないで、よほど必然がなければ普通名詞にしています。組織の中に“派”を持ち込みたくないからです。しかし、分かりやすさ現実感、親近感に欠ける面を否めません。例えば、「〇〇年、横浜高校」と書ければ。「なんだ、同じ松坂大輔時代、甲子園で一緒だったんだと、思えたり、△△通りの〇菓子店とあれば、いつも前を通る店だったかと思ひ浮かべて、気持ち繋がるでしょう。

もう少し、考えつつ楽しみつつ続けます。もうしばらくお付き合い願います。

身近な人

村野絢子

人ひとりこの世を去りぬ

北海道は函館で両親と姉 2 人の弟として生まれた君、待ちに待った息子の君を厳しく育てた父、「私たちは父に期待されていなかった」と姉たちは今語る。

あろうことか中学 3 年 15 才、病気の父 40 才と死別した。

函館の工業高校を卒業し、東京の建設会社に就職が決まり 18 才の君は列車で東京に向かった。

入社した会社で真面目に仕事に取り組んだ。誠実に働く、穏やかな君を周りの人はよく見ていた。

異なる職種の職人さんに段取り良く働いて貰う要の仕事・現場監督・その手腕を見込まれてよい仕事を沢山した。

タイプの違う幾つもの会社で仕事一筋に生きた君、関わった仕事は建物として東京のあちこちに残る。小柄でハンサムな君は、小柄で気の利く娘と出会い結婚した。

娘の祖父の一部屋で始めた新婚生活、長男・次男と続いては手狭でアパートに。隣人に気兼ねするより思い切ってマンションに。やがて 3 男が生まれ、3 人息子のそろい踏み。

それぞれの成長を楽しみに、どの学校行事も映像に残し、お遊戯会、学芸会、運動会、展覧会、合唱コンクール…幾つものテープが増えていた。

年を重ねて 2019 年のある日突然、アスベストによる肺の病が火を噴いた。胸膜に水が溜まり 40 歳の胸水が肺を圧迫。癌は進んで 2 年の余命宣告、病と闘い丸 2 年、自宅のベッドで永遠の眠りについた。

痛みも苦しきもない国に 55 才で、愛する妻と 3 人の息子を残し天国に旅立った君。

結婚式を挙げた同じ教会で葬送式が執り行われた。天に一人を増し加え、地に一人を減じたり。〈三女望の夫・西康幸君が 2021 年 11 月 26 日天に召された。2 年間の詳細な闘病日記「最後の方は望」が 4 冊のノートと、厚いファイルが数冊残されている。〉

YMCA Today

■本来であれば 12 月は 2 年生を対象に海外ホテル・観光研修の時期ですが、コロナ禍の影響により海外渡航は依然厳しく、本年度は国内にて行う事となりました。12 月 6 日 (月) ~ 11 日 (土) の期間内にて各 2 泊 3 日を①沖縄、②九州、③関西と 3 コースを取り揃え、各地域の名立たるホテルに宿泊し、見識を高めて参ります。まずは実施出来ることに喜びを感じるばかりです。

■1 年生においては、本来 9 月 ~ 2 月までの 6 か月間、ホテル研修を一都三県のシティホテルにて実施しておりますが、本年は緊急事態宣言解除後、間もないホテル業界に学生全員を送り出すことは難しく、オンライン授業に変更致しました。しかしながら秋季を迎えた今、ホテルでは少しずつレストラン部門を中心に活気が戻り、この 12 月 ~ 2 月上旬までの期間、ホテル実習が実施出来ることとなりました。学校での学びも大切ですが、クリスマスや年末年始の繁忙期をスタッフとして取り組める経験は大変貴重です。社会人としての一步を踏み出す 110 人のホテルエの卵たちを見守り

たいと思います。

■11 月 23 日、「東日本地区 YMCA 役員研修会」がオンラインで開催され、東日本地区を中心に 16 の YMCA から役員・委員・職員等合わせて 115 人 (東京 YMCA から 18 人) が参加しました。「YMCA における公民連携事業について」をテーマに、中林貴紀氏 (茨城 YMCA 理事) と波多啓造氏 (東京 YMCA アフタースクール・公民連携事業統括) から発題があり、その後分団協議を行いました。

■全国 23 の YMCA は、「Amazon みんなでサンタクロースプログラム」(Amazon の企画による「ほしいものリスト」を活用したクリスマスチャリティーキャンペーン) に参画。東京 YMCA は子ども食堂「下町こどもダイニング」や、日本語支援「にじいろサポート広場」に通う子どもたちへのクリスマスプレゼント (お菓子や文具) のご支援をキャンペーンサイト上でアピールしています。

(担当主事代理・木川 拓)

編集後記

早いもので今年も最後の月となりました。寒さもここ数年間よりも厳しいと感じます。

毎度のことながら、原稿をお寄せ下さった方々に感謝します。毎月掲載されている当ブリテンの中心的読み物、吉田明弘の筆になる「インタビュー」。いつも、人選、依頼、設問、編集等、編集子にとって到底不可能なことと、ご苦労も一通りではないと思っていましたが、先月号と今月号にわたる「ふりかえり インタビュー」を拝見して、なるほどな、と思ったり、そうだったのか、と思わされました。

毎月 2~3 人の方に 30 行 (15 字/行) 程度の随想 (ワイズから離れて近況や趣味のことなど) が載れば楽しいブリテンになるのかなと夢みしています。(S.K)

